

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 事業所番号 (2894000518), 法人名 (株式会社ニチイ学館), 事業所名 (ニチケアセンター英賀保), 所在地 (兵庫県姫路市飾磨区英賀清水町1丁目38番), 自己評価作成日 (令和2年2月28日), 評価結果市町村受理日 (令和2年3月25日)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL (http://www.wam.go.jp)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 評価機関名 (特定非営利活動法人CSウオッチ), 所在地 (兵庫県明石市朝霧山手町3番3号), 訪問調査日 (令和2年3月7日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様の状態にあわせできるかぎりのケアにつとめている。行事は季節に合わせて、1、2階合同でできるようにしている。お正月は、お重に詰め、お一人ずつに提供し、とろみ食や、ミキサー食の方も見た目が同じものを出して、手作りの物を一品出して食事を楽しんでいただいた。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・重度化傾向(寝たきり4名、車いす利用者10名)の環境変化の中で、本人にどうあったら良いのか家族の意向等事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえ、重度化に伴う対応の在り方を事業所の力量を考慮どう支えていけるか他の利用者への影響や職員体制も踏まえ課題解決にむけ検討している。【工夫点】・思いや意向の把握で「本人はどうか」の視点に立ち、家族や関係者の情報を得て、丁寧に職員間で意見を出し合い検討の工夫をしている。・重度化に伴う対応の在り方を事業所の力量を考慮どう支えていけるか他の利用者への影響や職員体制も踏まえ課題解決にむけ工夫、検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Results (self-check), Achievement Results (evaluation). Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding user needs, staff interaction, user independence, staff support, user outdoor activities, user health/safety, and user satisfaction.

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中でその人らしく生活していただける施設、ご家族様や地域の絆、地域のふれあいをたいせつにし、安心して暮らしていただける」を頭に置き、毎日ケアに取り組んでいます。	運営理念にもとづく左記内容の事業所理念を基に寝たきり4名、車いす利用者10名の重度化している利用者等への理念の共有化を図り実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りには、屋台を施設前まで来ていただき、練っていただいての交流を図って居ます。管理者が地域のふれあい給食に参加して地域の方と交流するようにしている	自治会の秋祭りの屋台を施設前で練っていただき交流を図り、民生委員参加の地域婦人会開催のふれあい給食に管理者が参加等事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設に当たり、地域包括の職員様中心で地域の方々や職員に向けての「認知症研修」を実施していただく。また地域のオレンジカフェに参加し理解いただけるようにお話しする機会を2ヶ月に1度持つようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で家族・地域・地域包括様には状況報告し、意見・提案を伺い取り入れられている。	運営推進会議は、包括支援センター担当と自治会長参加のもと利用者やサービス実施現状及び事故報告等状況報告後自治会長による避難訓練の話を伺い、これらの意見などをサービス向上に活かしている。	事故及びヒヤリハット数等見える化資料(グラフ活用等)にもとづく報告による事故防止策の推進が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会に参加している。勉強会を兼ねた現状の状況報告等意見交換し、ケアサービスに取り組んでいる。また、毎月月末には、市の担当者に空き状況等連絡のやり取りはしている。事故トラも提出している。看取り委員会に参加して問題を提示するようにしている	地区グループホーム連絡会の副会長職として管理者が参加し、徘徊時の対応・連絡など意見交換や、姫路市主催の看取り委員会に参加し、問題提起等協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例などを参考に研修をし職員の身体拘束が発生しないよう、させないよう意識を高めている。現状は、玄関の夜間施錠以外は常に開いている。	車いす利用者が10名と増え、事例等を参考に年2回研修を実施し、スピーチロック等を含め身体拘束をしないケアを正しく理解し発生予防に取り組んでいる。玄関施錠は日中時間帯はフリーとしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を実施し、虐待に関して話す機会を設け職員の意識を高めている。また、職員自身のストレスが溜まっていないかお客様へのケアと同様スタッフの心のケアに努めている。	研修計画にもとづく虐待防止の研修を実施し、重度化に伴い職員負担増背景での職員ストレスからの発生予防等虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日常職務の中で虐待につながるような言葉づかい等事例参考に話し合いを進め、発生予防への更なる推進が望まれる。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、研修に参加する機会はあるが、現状成年後見人と利用が必要とされる方は2階に1名おられ家族様と法律にのっとり手続きを実施した	権利擁護に関する研修は実施している。現状成年後見制度活用者は1名いる。権利擁護に関する資料等入手し、ユニット会議で現況同制度活用対応状況を参考に話し合い等理解を深めている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は十分な時間を持ち、質問等にも答えながら行っている。納得していただいている。介護報酬改定時も運営推進会議での情報提供する。契約時に重度化について話し対応を考えていただいている。	契約等では、利用者や家族の関心事である退きの基準や重度化した場合の緊急搬送時の対応など十分な時間を取り理解。納得を図っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様には、常にお話を聞かせて頂き、家族様には来所時にお話を伺ったり、お電話があった時に意見を伺っている。年に一回のニチイからのアンケートをお送りしての顧客満足度調査実施して要望お伺いしている。	利用者家族は市内在住が多く月1回は訪問されている。又電話時も活用し、意見交換等している。法人として年1回顧客満足度調査実施しており結果も意見交換に役立たせている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議を行い、意見をみんなで共有しお客様の問題点など話している。また、日常の中でも疑問や、問題点があった特はその都度話を出来る環境にある。ただ重度化により職員の不満も大きくなっている。	ユニット会議、全体会議で運営に関する問題点、職員意見交換等行っている。ミキサー食利用者が増え、ミキサーが壊れ職員負担が増加し、新規入手要請を出しているが、まだ実現がされていない。	重度化に伴う職員負担増の早期解消の一つとして「働きやすい環境づくり」は効果的課題達成に向けて管理職の更なる積極行動が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内でのスキルアップ制度等個々のスキルのアップ・意欲向上につなげるように努力している。 職員の希望休にも出来る限り添えるようにお互い様の精神で協力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の参加・外部への研修を随時参加を呼びかけ、自己啓発に取り組めるように提案はしている。スキルにあわせて個人指導も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ニチイの有料老人ホーム、デイサービス、訪問介護、グループホームで研修を行い、交流を図っている。地域包括等で開催の研修には、管理者・計画作成、希望者も参加して事例検討会などで、向上にとり組んでいる。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で家族様・ご本人様の意向を確認し情報収集を細やかに行うことで、信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階で家族様のお困りごとを必ずお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様・ケアマネジャー様の情報を考慮して、必要なサービスを提案する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様のペースで生活が出来るように、その人が出来ることを目指している。お客様同士でも出来ることを協力しながら行われていることを職員も見極めながら、掃除・テーブル拭き、洗濯たたみを依頼している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診等ご家族様が負担にならない範囲でご協力いただいている。依頼することで、お客様の精神的な状況把握にもなり、孤立感なく生活頂ける様努めている。外出や外泊時の準備やバックアップも提案し家族様との交流が楽しんで頂ける様に計画している		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様・知人の訪問がある方とそうでない方に分かれていますが、ご家族様の協力があればこそ継続しての訪問をしていただけるように私たちは環境を整えるように心がけている。	本人がこれまで培ってきた人間関係や関係性を把握し、その関係を断ち切らないように支援している。その人らしく生きるために今まで大切に支えてきた家族やお孫さんとのつながりや交流等継続できるよう支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様の関係性を把握し、良好な関係が継続できるように座席の配置を考え、適宜配置変更も行っている。ユニットでの交流は日によって職員が散歩を兼ねて行っている。1, 2階合同で行事を行い交流を持つようになっている		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで退去でほかに移られたのは1名おられるが特に行動はしていない。家人に合えばお話してさびしくなったことを伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思い・希望をしっかり聞き取り、ケアに当たる。日ごろの行動・言動を観察することで、その方の新たな思いを感じ取れるように職員は常に意識をして困難なときでも家族様と共に検討し対応している。	本人がどこでどのように暮らすことが最良なのか日々のかかわりの中でそれとなく把握するようにしている。「本人はどうか」の視点に立ち、家族や関係者の情報を得て、丁寧に職員間で意見を出し合い検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の状況元に追加になることがあれば、ご本人・ご家族様よりお聞きして、生活歴・病歴把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日お客様に声を掛け表情を確認すると共に、職員の申し送り等で状況を把握できるように努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が来られた際は、状況をお伝えしている。何か課題・問題点があればその都度職員・家族様に相談しながら対応している。	本人及び家族の状況は刻々と変化しており設定した期間での見直しはもちろん、食事形態変更や介護ベッドの検討など状態変化に応じその都度計画変更を行っている。家族とは相談室にて時間を取り相談を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況は介護記録に記入しているが、変化があれば日誌に記入し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状インフォーマルなサービスに繋げることは出来ていない。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	往診医・訪問看護・自治会長・民生委員・ボランティアさんに支えられている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からのかかりつけ医か協力医の定期訪問診療(月2回)を希望されるか家族様に説明し、選択していただいています。どちらを選ばれても適切な医療を受けていただけるようにはしている。	24時間体制で協力医と連携を図っている。夜間等の急変時は看護師への相談ができ主治医の指示も得られる。薬処方後の調整では主治医にFAX等で密に状況報告し適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様のご様子・些細なこと気になることは週2回訪問看護来所時相談したり、記録用紙を使用している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は日常生活や必要な情報をいきょうしている。ご家族の希望等を日頃より伺い病院にもお話出来る様にしている。	入院時は早期に退院できるよう面会し病院と情報交換を行う、また看取り委員会にグループホーム副代表として参加し看取りの現状を把握するアンケートを実施し医療・介護関係者と顔の見える関係づくりに努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約していただくときには、説明をしている。可能な限り生活を継続していただけるように家族様・医療関係者には相談している。医療が常時必要な状態では、当施設での生活を継続できないので、ターミナルも含めお客様の希望を把握して相談している	本人にどうあったら良いのか家族の意向等事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえ、方針を話し合い検討している。重度化に伴う対応の在り方を事業所の力量を考慮どう支えていけるか他の利用者への影響や職員体制も踏まえ課題解決にむけ検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを使い緊急時の対応と連携に対しては研修を行っているが、何をまず行わないといけないかは指導してはいる。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、その内の1回は消防署職員から災害時の対応を指導受けている。	運営規程明示の非常災害対策に基く避難訓練を年2回内1回を消防署立会で実施している。夜間想定訓練計画。運営推進会議参加の自治会長の自治会災害訓練等現況を伺い参考としている。備蓄は倉庫に保管管理されている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格・尊厳を尊重しお客様と顔・目を合わせて丁寧な言葉で話をするように心がけている。しかし家族のような雰囲気も大切にしている。	職員が利用者に発している言葉の内容や語調等が、利用者の誇りを傷つけたり、損ねるものになっていないか、日常的に確認し改善に向け取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の希望をお聞きしながら決定しているが、すべての希望をかなえることが難しく、選択肢を提案し、出来るかぎりの尊重はしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外に出かけたい方が居れば出来る限り一緒に散歩や、買い物に行けるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えはお客様に選択していただいている。化粧品等スキンケアも女性は大切なので希望に応じて購入または、ご家族様に依頼している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じ取れるように食材はお出ししている。見た目も大事なので色合いも気にしての食事提供を心がけている。お客様には、調理・食材洗い・食器洗い・食器拭き等できることを見極め依頼している。	どんな場面でも食欲がわくかを把握したり、食欲をたかめたり、食事への関心を引き起こすための工夫をしている。ミキサー食の方も多し。行事食やおせちにはソフト食を取り入れ雰囲気をとても大事にし取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重管理も必要に応じ行い、食事量・水分量もしっかり一覧表でわかるように管理している。燕下機能に応じてトロミ剤、キザミをお客様に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。一人一人の出来るところまでのご自信で行っていただき、見守りを行っている。出来にくい部分は、介助させていただきます。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でのトイレ利用されている方でもハットが濡れる前には声掛けをしています。自力が難しい方は、排泄リズムを把握し定期のトイレ誘導を行う。体調に合わせたオムツや紙パンツの利用で失敗が無い様に清潔に配慮しながら支援をしています	一人一人のサインを全職員で把握し、さりげなく支援するように努めている。排泄チェック表を使用し身体機能に応じて手を差し伸べている。車いす使用で立位が難しい方には職員2名体制で介助し取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜・ヨーグルト食物繊維が多い食材などをお出ししている。毎日体操を取り入れ、散歩等歩行を進めている。水分摂取もこまめに促し声をかけている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様のご希望の入浴は、時間帯と職員の見守り・入浴介助の配置があわず行えないことがある入浴日に関しては、同じ間隔のなるよう対応している。時間帯はその日によって対応している。また、外出等の時はその都合にあわせて対応している。	職員が一方向的に決めずに、利用者のその日の希望を確認しながら週2回入浴していただく。入浴の負担感等その方の状態に合わせてシャワー浴や清拭に切り替え支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の就寝はお客様に応じて誘導対応している。昼間の静養に関しては、長くならないように適宜声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更等があったときはお客様の状況変化の様子観察を行い様態が変わればすぐに往診医または家族様に連絡し相談指示を仰ぐようにして居る。副作用については職員にも申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様のお好きなこととお聞きして、歌や買い物・食べ物等対応できることは行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様が通院時に買い物・喫茶店などに連れて行かれたりされている。買い物と、散歩も職員一人が必ず付き添い歩いて出かけている。重度化しており個々の対応をしている	重度化に伴い外出は職員と1対1でのお買い物や車椅子を押し近隣へ散歩に出かける。1階2階フロア一合同での盆踊りやクリスマス会を開催するなど日々の暮らしで楽しみや張り合いのあるもにになるようできる力を最大に活かせるよう工夫している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様でのお金の管理は難しいのでお小遣い金として上限1万円を預かり、希望に沿ったものを購入させて頂いたりと管理させて頂いている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所でお客様の要望があればご家族様に連絡をしている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等に季節に合った壁画・写真等を飾っている。室内温度は季節に合った温度に調整している。明るさは目に優しい照明を付けている。冬は、床暖を着けることで足元の冷えを予防し、健康に配慮している。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激がないよう配慮し、リビングには季節にあった利用者のひな祭り作品や写真を飾り、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人きりになるスペースは庭にベンチを設置しているが安全面から見守りが必要、リビング等で気の会う方々でテレビを見たり、新聞よりのニュースを話したりされている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り今までの生活に馴染みのものを持参していただいている。	居室は本人や家族と話し、今までの生活で馴染みのあるものや好みの写真等を持参して貰い、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が出来るように、床はバリアフリーになっている。また、トイレ・お風呂には、手すりが設置しており、お客様が歩くことが可能な配慮をしている。		